

令和3年版 愛媛県環境白書の概要

1 概 要

県では、第六次長期計画「愛媛の未来づくりプラン」の下、「やさしい愛(え)顔(がお)」があふれる愛媛を目指し、地球温暖化対策の推進や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、かけがえのない環境を守る各種施策を展開している。

また、令和2年2月には、新たな課題や潮流に適切に対応し、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため「第三次えひめ環境基本計画」を策定し、環境・経済の好循環による持続可能な社会の構築を目指して邁進している。

2 トピックス

(1) 瀬戸内オーシャンズX連携協力協定の締結

本県をはじめ、岡山県、広島県及び香川県の瀬戸内4県は、海洋ごみ問題は看過できない問題であるとの共通認識の下、令和2年12月に日本財団との間で「海洋ごみ対策に係る連携・協力に関する協定」を締結した。同協定に基づき令和3年2月に設立した「瀬戸内オーシャンズX推進協議会」では、海ごみゼロを目指し、シンポジウムの開催や、県境を越えた河川や海底のごみの調査研究等を行うこととしており、今後も瀬戸内海の環境保全に向け、関係自治体等と連携して、広域的な海洋ごみ対策を一層加速していくこととしている。

(2) 吉田仮設浄水場・三間仮設浄水場の完成

平成30年7月豪雨災害では、県内各所で水道施設が被災した結果、多くの地域で断水が発生し、その影響は、最大で12市町、31,068戸、63,856人に及んだ。特に宇和島市吉田地域では、吉田浄水場が壊滅的被害を受け、現地での復旧や再建は困難と判断されたことから、現施設に代わる新たな浄水施設を、吉田・三間地域にそれぞれ設置することとなった。

県内はもとより全国各地から多大な支援を受けて浄水施設は完成し、三間仮設浄水場では令和2年9月1日から、吉田仮設浄水場では同年10月26日から、水道水の安定供給が開始された。

(3) 知事の燃料電池自動車の試乗

地球温暖化対策の切り札とされている水素をエネルギーに走る車として県内で初めて車両登録された燃料電池自動車「MIRAI」が、県庁でお披露目され、中村知事が、環境配慮はもとより、ガソリン車と遜色ないパワーや走行性能の高さなどを体感した。

県では、令和3年4月から水素ステーションの設置に係る補助制度を立ち上げるとともに、燃料電池自動車をイベント等で活用するなど、水素エネルギーの導入促進の取組みを進めている。

(4) 半世紀ぶりのニホンカモシカの県内確認

県内で50年以上確実な生息情報が得られておらず、「県内絶滅」に位置付けられていた国特別天然記念物のニホンカモシカは、令和2年6月に新居浜市の県道を走る姿が動画撮影されるなど有力な目撃情報が相次いで寄せられたことから「えひめの生物多様性保全推進委員会」など専門家によって、県内での定着（生息）の可能性が高いと判断された。県では、同委員会の意見等を踏まえ、令和3年2月に県「レッドリスト（絶滅危惧種リスト）2020」を改訂し、「絶滅」から「絶滅危惧種I類」に分類を見直した。

(5) えひめの環境の未来を考えるシンポジウムについて

令和2年2月に策定した「第三次えひめ環境基本計画」及び「愛媛県地球温暖化対策実行計画」の普及啓発をはじめ、令和2年4月に開所した県気候変動適応センターの周知や県民の意識啓発を図るため、「三浦保」愛基金を活用し、喫緊の重要課題である気候変動対策をテーマに、「えひめの環境の未来を考えるシンポジウム」を開催した。

(6) 気候変動情報収集・分析事業

県気候変動適応センターが実施した県民アンケートでは、7割以上が自然災害や熱中症の増加に不安を感じていることが明らかになるとともに、農林水産団体への調査結果では、柑橘類の果皮障害や病害虫の発生、鳥獣被害や豪雨による林地等の崩壊等の影響が指摘されたほか、現在の適応策として、暑さに強い品種の導入や小まめな施肥管理、養殖時期の変更等が挙げられた。

また、気候変動が様々な分野にもたらす影響や適応策への理解促進を図るため、えひめ気候変動適応セミナーを開催した。

(7) EHIME COOL CHOICE AWARD（えひめ・クールチョイス・アワード）の実施

地球温暖化対策につながる賢い選択「クールチョイス」の実践している取組みの写真と説明をSNSで募集したところ、温暖化対策に資する取組みやアイデアが多く寄せられ、それらを環境イベントで紹介するとともに、審査・県民投票により、受賞者を決定した。

また、様々な取組みを生活の場で役立ててもらえるよう、受賞者に加え上位の取組みの投稿を集めた「えひめCOOL CHOICE カタログ2020」を作成した。

(8) 愛媛県食品ロス削減推進計画の策定

食品ロス実態調査を実施した結果、本県の食品ロス量は約5.1万トンで、その6割を直接廃棄や食べ残し等を要因とする家庭系が占め、事業系は食品製造業が最も量が多く、次いで小売業、外食産業となっており、未利用食品の有効活用や食べ残し防止、食品製造工程の改善等の必要性が浮き彫りとなった。

これらを踏まえ、令和3年3月に「愛媛県食品ロス削減推進計画」を策定し、2025年度までに食品ロス量の2020年度比で10%削減を目標に掲

げ、各種施策を総合的かつ計画的に展開することとしている。

(9) 愛媛県海洋プラスチックごみ総合調査

令和2年3月に策定した「えひめプラスチック資源循環戦略」に基づき、県内7地点におけるマイクロプラスチックを含む海洋プラスチックごみの種類や数量のほか、肱川を対象に河川から海域へのごみの流出状況等を調査した。これらの調査結果を踏まえ、効果的な削減策の実施につなげていくこととしている。

(10) ごみ処理事業に係る新型コロナウイルス感染症対策

市町や事業者の新型コロナウイルス感染症対策を支援するため、市町職員や委託業者を対象にごみ処理事業における感染症対策とBCPについて説明するセミナーを開催した。

(11) 自然公園の映像制作・発信事業

新型コロナ感染拡大の影響により、利用者が減少している自然公園の魅力をより多くの人に知ってもらい、コロナ収束後の利用者拡大につなげるため、県内を代表する自然公園である「瀬戸内海国立公園」、「足摺宇和海国立公園」、「石鎚国立公園」の魅力あふれる風景を空撮や水中ドローンを駆使して映像化したほか、本県で初めて自然公園をVR（バーチャルリアリティ）により疑似体験できる動画も制作し、インターネットで配信している。

(12) 特定外来生物研修会の実施

本県でも、物流の進展や人の往来などによって、セアカゴケグモ、アカカミアリといった「特定外来生物」の確認が各地で頻発しており、令和2年7月には、松山港の輸入コンテナから約6千匹のアカカミアリが発見され、関係者や県・地元自治体が連携して早期に駆除した。

県では、こうした状況を踏まえ市町職員や運送・港湾関係者、農業者を対象に特定外来生物の発生要因や発見時の対応などを専門家から直接学ぶ研修会を、初めて開催した。

(13) 四国カルスト県立自然公園フォトコンテストの開催

県立自然公園の優れた風景地とその魅力を再発見し、自然保護意識の醸成と、より多くの方々に訪れ、満喫してもらうため、「四国カルスト県立自然公園」を題材としたフォトコンテストを開催した。

コンテストでは、応募のあった451作品の中から、大賞、優秀賞、奨励賞のほか県立自然公園賞など計10点が受賞作品に選ばれ、これらは県庁第一別館1階ロビーで展示したほか、今後も本県の県立自然公園の魅力伝える啓発活動に活用することとしている。

3 環境と経済の好循環による「愛顔あふれる持続可能なえひめ」

(1) 愛媛を取り巻く環境の現状

本県の生活環境や地球温暖化対策等における様々な環境保全施策やそ

の取組状況等の現状を取りまとめている。

(2) 環境保全の総合的推進

低炭素・脱炭素社会の実現、環境への負荷が少ない循環型社会の実現、生物多様性の保全などの環境課題に適切に対応するため、庁内体制の整備を図り、愛媛県環境基本条例や第三次えひめ環境基本計画に基づき、環境保全に関する様々な施策の推進を図っている。

(3) 地球温暖化対策の推進

「気候変動適応法（平成30年12月施行）」を踏まえ、令和2年2月に「愛媛県気候変動適応計画」と統合する形で「愛媛県地球温暖化対策実行計画」を策定し、本県が目指す姿として、2050年に温室効果ガス排出実質ゼロの「脱炭素社会」を掲げ、県民総ぐるみで温室効果ガスの排出削減対策を推進している。

(4) 循環型社会の構築

「第四次えひめ循環型社会推進計画（平成29年3月策定）」に基づき、循環型社会の構築に向けた各種の施策を総合的かつ計画的に推進している。

(5) 瀬戸内海環境保全対策の推進

瀬戸内海の環境保全を総合的に進めるため、第8次水質総量削減計画、第三次全県域生活排水処理構想及び瀬戸内海の環境の保全に関する愛媛県計画等に基づいて、瀬戸内海の環境保全対策等を推進している。

(6) 生物多様性保全の取り組み

将来にわたって人と自然が共生し、豊かな自然と文化が守り育まれる社会の実現を目指して生物多様性えひめ戦略を策定し、生物多様性の保全と管理をはじめ、多様な人々の連携・協働などを推進している。

また、野生鳥獣の保護及び管理の方向性を示した「第12次鳥獣保護管理事業計画（平成29年3月策定）」に基づき、野生鳥獣の保護管理対策を推進している。

4 令和2年度の現況と対策

(1) 安全で良好な生活環境の保全

令和2年度の本県の大気環境については、二酸化硫黄、一酸化炭素、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質は、環境基準を100%達成、微小粒子状物質は、環境基準を94%達成、光化学オキシダントは未達成であった。

なお、光化学スモッグ注意報の発令及びPM2.5の注意喚起はなかった。

水環境については、健康項目はすべての地点、すべての項目で環境基準を達成しているが、生活環境項目は、BOD又はCODにおいて、河川で83%、湖沼で100%、海域で79%の達成率になっている。

公害苦情処理については、県及び市町における苦情受理件数は846件で前年度より15件減少している。典型7公害のうち、大気汚染が最も多く258件（前年度227件）で、騒音133件（128件）、悪臭114件（85件）の順

となっている。

その他騒音、振動、悪臭、土壌環境、環境放射能、有害化学物質等の概況について測定データ等をもとに検証している。

(2) 気候変動対策の推進と低炭素・脱炭素社会の実現

県民総ぐるみによる地球温暖化防止のための賢い選択（＝クールチョイス）の具体的取組として、「クールビズ四国」、「ウォームビズ四国」の各キャンペーン及び「えひめ・クールチョイス・アワード」を実施したほか、運輸部門においては温室効果ガス排出量削減対策及び削減への意識向上を図るため、エコ通勤普及キャンペーンの実施、電気自動車を蓄電池として利用するV2Hシステムの普及啓発、エコドライブの推進等を行った。

さらに、温室効果ガス排出量が増加している家庭部門の対策として、自転車ツーキニスト拡大のため、ツーキニスト育成講座を県YouTube公式アカウントにおいてオンデマンド配信形式で実施するとともに、温泉・銭湯を利用することにより、家庭の給湯からのCO₂排出量を削減するため「温泉シェアスポット」スタンプラリーを実施した。

また、令和2年4月に新設した県気候変動適応センターを中核に、気候変動影響・適応に関する調査研究や市町等への助言等を実施するとともに、気候変更に関する県民の身近な問題である熱中症をテーマに適応策の普及啓発等を実施した。

(3) 環境への負荷が少ない循環型社会の実現

県内の一般廃棄物の年間総排出量は、令和元年度（実績値）で約45.2万tで、そのうち約7.5万tが資源化され、リサイクル率は16.5%となっている。また、産業廃棄物については、「資源循環促進税」を活用して、紙産業資源循環促進支援事業や産業廃棄物不法投棄未然防止対策の強化など、産業廃棄物の排出抑制、減量化や有効利用を促進するとともに、適正処理の確保を図っており、年間総排出量は、令和元年度（実績値）で約798.1万tで、そのうち約250万tが資源化され、リサイクル率は31.3%となっている。

(4) 生物多様性の保全と自然共生社会の実現

県内に生育している動植物の現況把握に努めるとともに、自然公園等の適正管理や環境啓発登山、エコツーリズムの推進により自然保護思想の普及啓発や自然との触れ合いに努めた。

また、人類の生存基盤である自然生態系の健全な保持に必要な種の多様性を確保するため、愛媛県レッドデータブックにより明らかとなった希少野生動植物の保護管理や外来生物対策を行うとともに、人と特定鳥獣との共存に資することを目的に第二種特定鳥獣管理計画等を策定し、科学的・計画的な野生鳥獣の適正管理に取り組んでいる。

(5) 環境教育・学習の充実と環境保全活動の促進

学校や地域における環境教育を充実させるとともに、えひめ環境大学

の開催等を通じて環境教育等を推進する人材の育成に努めた。また、小・中・高校生を対象にした「環境啓発ポスターコンクール」をはじめ、「三浦保」愛基金の活用した環境保全活動を行う非営利団体に対する補助金の交付や環境保護に著しく貢献した個人や団体の表彰等、また、「愛リバー・サポーター制度」等によって、環境活動団体と行政との協働化を推進した。

また、食品ロスを削減するため、「愛媛県食品ロス削減推進計画」を策定し、先進的な食品ロス削減に取り組むとともに、県民総参加による運動の展開や、環境や人、地域等をおもいやる消費行動「おもいやり消費」の理解を広めるため、普及・啓発キャンペーンを実施した。

(6) 地域循環共生圏の形成

環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業の実施に際し、事業者自らが適正な配慮を行うことにより、環境保全上より望ましい事業としていく仕組みである環境影響評価制度について、県独自の条例を策定するなど、環境影響評価の適正な実施を推進している。

また、資源循環優良モデル認定制度の実施やグリーン購入の促進など、環境対策ビジネスの振興及び環境に配慮した行動の促進に努めるとともに、エコファーマーの育成など環境と調和した産業経済活動の推進に努めた。

さらに、近年の集中豪雨や地震による大規模停電の発生に伴い、注目されている分散型エネルギーシステムの推進のため、再生可能エネルギー等の導入に向けた普及啓発に取り組んだ。